

## 栃木県のコロナ禍合唱事情

### 練習場所がワクチン接種会場に！

齋藤茂樹

ドン合唱団/混声合唱団コール・ミリオネア

栃木県の毎日の新規感染者数は全国の地方の県と同様に見えますが、感染比率で見ると他県に比べてかなり高い状況が続いています。厚労省発表の「自宅療養者数及び療養等調整中の数の合計値」は11月30日(水)現在、対人口10万人あたり(前週差)の全国平均538.6人(+64.2)に対し、栃木県は674.0人(+115.6)と高い水準となっています。+100人超は8都県あり、栃木県は5番目に位置しています。

現在の警戒度は、基本的感染対策の徹底、都道府県をまたぐ移動を控えるという「レベル2」で、オミクロン株対応ワクチンの早期接種を推進しています。

### 参加合唱団を縮小して活動

団員の多くが高齢であり、持病があったり、介護に携わっていたりなどの諸事情により今でも練習中止になることがあります。私は実家(群馬県伊勢崎市)の両親が高齢のため、なるべく週末土曜に実家に行くようにしているので、土曜が練習の合唱団を退団し、平日夜のドン合唱団(男声)と週2回日曜昼練習の混声合唱団コール・ミリオネアでのみ活動しています。

退団した合唱団は元々日曜が練習日でしたが、練習会場としていた施設の多くが日曜にワクチン接種会場になり、やむなく土曜に変更となって、私は活動を続けられなくなったケースがあります。この合唱団の練習が日曜に戻ったならば復帰したいと思っていますが、当日曜の練習場所は確保できないようです。

指導されている先生がたの多くは複数の団体を指導されていて、ある団体では練習実施に慎重で、別の団体は練習実施を強く望んでいるなど、団によって様々な事情があります。前者は練習中止、後者は自主練習という名目で実質通常練習するなど苦勞されているようです。

私は今年の4月以降、宇都宮市の合唱祭と栃木県の芸術祭でそれぞれ2曲ずつステージで歌うことができましたが、どちらも歌うとき以外はマスク着用、歌う時のみ隣同士十分な間隔をあけた上でマスクを外しました。所属合唱団では換気しながらマスクを着用し、指揮者と団員の間にビニールシートで仕切りを立て、間隔をあけて練習しています。

また、コロナ禍前に普通に行われていたような、密集した中での練習が好きで、両隣や前後の人の声や歌いかたはもちろんのこと、何を考えて歌っているのかもわかるような、緊張感・緊迫感に満ちている練習が好きですので、今のようにいつも間隔

を広くあけた状態は早く終わることを望んでいますが、当分無理かと残念に思っています。

### クリスマスは忙しいボーイング従業員合唱団

私は、アメリカのBoeing employees choirに2009年から2012年まで在籍していました。

<https://www.boeingchoir.org>

久しぶりにホームページを見てみると、そこには当時一緒に歌ったメンバーが多数映っており、10年経っても風貌は変わっていないようです。ホームページの“Listen to Us Sing!”で演奏を聴くことができました。私の大好きなビートルズの“Black bird”は2022年9月の演奏で、予想を遥かに超えた上手な演奏で、上手くなったなーと感動しました。

私がいた当時の指揮者が高齢を理由に引退され新しい指揮者が招かれました。新しい指揮者は、全員に対し「もっとフレーズを大事に」「もっと抑揚をつけて(言葉のイントネーションとアクセント)」「もっと言葉を大事に」と言い続けていました。それまではやや棒歌いだったのだと思います。



アメリカのクリスマスシーズンの盛り上がりはすぐ、多くの老人ホームなどでクリスマスソングを歌います。有名な“Go tell it on the mountain”ではmountainの語尾の音量が大きくなりすぎて皆さん修正するのに苦勞していたことを思い出しました。

2005年に開かれた男声合唱プロジェクトYARO会主催の多田武彦講習会で、「おはようございます」より“Good morning”の方がクラシックの声楽的発声に有利ではないか・とおっしゃり、その時は「そだなー」と納得しておりましたが、ボーイング合唱団の経験でアメリカ人だから有利ということはなく訓練次第だとわかり、また日本語の母音の明瞭さは結構有利だと思いました。

指揮者に「私の発音はどう？」と聞くと「イタリア語っぽくていいよ」と言われました。彼らの歌うイタリア語やドイツ語の歌は母音が英語の母音のような曖昧さで、指揮者からは「アはアと言いなさい、イはイと言いなさい、サイトウの様に」などと言われておりました。

アメリカではコロナ禍の中でどの様なことに注意して活動しているか詳しくはわかりませんが、それなりに注意して活動しているのではないかと思います。

### お詫びと訂正

『おんがく広場』第204号で埼玉ヴォーカルアンサンブルコンテストの規定について、「打楽器の使用は不可」と誤って記載しましたが、正しくは関東ヴォーカルアンサンブルコンテストの規定と同じく「打楽器等で音階を伴わないものに限り使用可」です。但し、演奏時間は埼玉6分以内、関東7分以内と1分間の違いがあります。